



Kekkaku 結核

▼ 読みたい項目をクリックしてください

Vol. 101 No.2 March-April 2026

- 症例報告** 37……[病変の進展経過を確認できた慢性細葉性散布肺結核症（岡ⅡB型）の1例](#)
■久下 隆他
- 41……[脳への移行を考慮した化学療法と包括的ケアが奏効した粟粒結核合併脳結核の1例](#)
■若松謙太郎他
- 活動報告** 47……[非結核性抗酸菌症診療における薬剤師育成と結核・抗酸菌症指導医との協働による薬剤師外来の構築](#) ■佐藤可奈他
- 55……[非結核性抗酸菌症専門外来における GLIM 基準に基づいた低栄養診断と栄養介入](#)
■野間智美他
- 61……[空間共有を実施根拠とした大阪市西成区あいりん地域内の簡易宿所における結核接触者健診 — 2019～2023 年の実施データ解析](#) ■霜村竜匡他
- 会 告** 2026 年度 結核・抗酸症 認定医／指導医 資格申請・更新受付について
2026 年度 登録／認定 抗酸菌症エキスパート 資格申請・更新受付について
資格更新期限延長の扱いについて
- 事務連絡** ICD 認定資格の申請手続きについて

病変の進展経過を確認できた慢性細葉性散布肺結核症（岡ⅡB型）の1例

久下 隆 玉置 伸二

要旨：慢性細葉性散布肺結核症（岡ⅡB型）は肺結核のまれな病型である。その特徴は、「細かい病影の散布ではあるが、その散布状況は全肺野一様ではなく粗密の差が著明で、かつ1つ1つの病影も細かいながらも形が一様ではなく、多少大小があり、形もいわゆる細葉性といわれるように不規則な形をしている」とされる。今回われわれはこのまれな病型の病変の進展経過を確認できた症例を経験したので報告する。症例は40代男性。30歳過ぎから健診で胸部異常陰影を指摘されており、軽度の咳嗽があった。発熱と咳嗽の増加があり胸部X線写真で肺結核を疑われX年3月に当科紹介受診。胸部CTで両肺に細葉性病変によると考えられる陰影を認め、喀痰検査で肺結核と診断した。X-2年6月（当科初診の1年9カ月前）の他院でのCTを取り寄せ比較したところ、管内性散布によって病変が進展したことが示唆された。

キーワード：肺結核、慢性細葉性散布肺結核症、岡ⅡB型

脳への移行を考慮した化学療法と包括的ケアが奏効した粟粒結核合併脳結核の1例

¹若松謙太郎 ¹片平 雄之 ⁶永田 忍彦 ²福澤 美夕
³熊副 洋幸 ⁴小田 洋子 ⁵香月 耕多 ¹龍田実代子
⁷浅井さとみ ¹川崎 雅之

要旨：本症例は、粟粒結核に脳結核を合併した高齢女性例である。患者は75歳、女性。腰痛を主訴に受診し、約2週間後に発熱および全身倦怠感が出現した。胸部CTで両肺にランダム分布の粒状影を認め、PCR検査で結核菌陽性となり粟粒結核と診断された。他院でリファンピシン（RFP）、イソニアジド（INH）、エタンプトールによる治療が開始されたが、当院転院時の頭部MRIで脳結核を認めたため、脳への薬剤移行性を考慮し、抗結核薬レジメンをRFP、INH、ピラジナミド、レボフロキサシンに変更した。治療開始後、一時的に認知機能および運動機能の低下を認めたが、抗結核薬治療の継続により病勢は改善に転じた。さらに入院時より、運動療法、生活環境調整、栄養・睡眠管理、社会的支援などの多職種による包括的介入を併用し、回復過程を支援した。高齢者の粟粒結核合併脳結核では、脳への薬剤移行性を考慮した適切な初期治療が最も重要であり、治療効果発現までの期間における包括的チーム医療が機能低下の最小化に有用である可能性が示唆された。

キーワード：粟粒結核、脳結核、脳内薬剤移行性、抗結核化学療法、包括的ケア

非結核性抗酸菌症診療における薬剤師育成と結核・抗酸菌症指導医との協働による薬剤師外来の構築

¹佐藤 可奈 ²伊藤 明広 ¹亀井 健人 ¹徳田 衡紀

要旨：本邦では非結核性抗酸菌（non-tuberculous mycobacteria : NTM）による罹患者数，死亡者数が増加しており，2020年には死亡者数は，結核を超えた。また，NTM症治療は多剤併用化学療法が基本であり，治療期間も年単位と長期にわたる。そのため薬物トータルマネジメントが重要であり，医師に加え薬剤師の介入により質の高い診療が期待できる。今回，NTM症診療における薬剤師育成を目的に薬剤師外来を担当する薬剤師34名に対してNTM症についての勉強会を実施し，知識習得を評価するため50点満点のテストを行った。勉強会実施群の中央値は41.5点，未実施群の中央値は11.5点であり，勉強会が知識習得に寄与する可能性が示唆された。また勉強会未実施群において呼吸器内科病棟の経験有無では，経験ありのほうが高得点傾向にあったが，NTM症における知識が十分であるとは言えない状況が認められた。そのため知識・経験の補完を目的に指導ツールを作成し，薬剤師の知識の標準化を図った。今回，NTM症診療における薬剤師の教育・育成と結核・抗酸菌症指導医との協働による薬剤師外来の運用構築を行ったので報告する。

キーワード：非結核性抗酸菌症，薬剤師外来，副作用モニタリング，外来患者，専門外来

非結核性抗酸菌症専門外来における GLIM 基準に基づいた低栄養診断と栄養介入

¹野間 智美 ²尾下 豪人 ³坂本 藍 ³神田 裕美
⁴齋藤 瑛介 ²池上 靖彦 ²山岡 直樹

要旨：非結核性抗酸菌（NTM）症では低体重や低栄養が予後不良と関連するため、早期診断と介入が重要である。吉島病院ではNTM症専門外来開設を契機に、GLIM基準に基づいた低栄養診断を外来で導入した。待ち時間を活用して看護師がMNA-SFでスクリーニングを実施し、低栄養リスク該当者について体重変化、BMI、下腿周囲長で表現型基準を評価している。病因基準はNTM症を慢性炎症性疾患とみなして簡便に判定している。診断結果は電子カルテにテンプレート入力し、多職種で共有している。GLIM基準低栄養例には管理栄養士が個別栄養指導によって経口的栄養補助などで介入した後、摂取量や栄養状態を再評価している。今後はGLIM基準に基づいた低栄養診断と栄養介入が、長期予後などのアウトカムにどう影響するのかを明らかにする必要がある。また、スクリーニングツールの選択やNTM症患者集団に対する現行カットオフ値の妥当性についても検証し、運用方法を確立する必要がある。

キーワード：非結核性抗酸菌症，専門外来，低栄養，栄養介入，Global Leadership Initiative on Malnutrition (GLIM)

空間共有を実施根拠とした大阪市西成区あいりん 地域内の簡易宿所における結核接触者健診

— 2019～2023年の実施データ解析 —

¹霜村 竜匡 ^{1,2}工藤 新三 ³小向 潤 ^{1,3}國吉 裕子
^{1,3}植田 英也 ⁴山本 香織 ¹安田 有伽 ¹保田 彩音

要旨：大阪市西成区保健福祉センターでは、あいりん地域の簡易宿所で喀痰塗抹陽性結核患者が発生した際、空間共有を根拠に居住者への接触者健診（アパート健診）を実施している。2019～23年の健診実施分を対象に、健診結果、インターフェロン γ 遊離試験（IGRA）陽性の関連要因、潜在性結核感染症（LTBI）治療成績と患者支援方法を検討した。IGRA陽性の関連要因は、単変量解析で $p < 0.2$ の項目および初発患者の感染性に関係すると考えられる咳・喀痰菌量・空洞および接触者の年齢を独立変数、IGRA陽性を従属変数として多重ロジスティック回帰分析を実施した。対象者319人中204人（63.9%）が受診し、IGRA陽性59人（28.9%）、LTBI治療開始54人（93.1%）、治療完了51人（94.4%）であった。IGRA陽性は換気なしで有意に高かった（ $p < 0.05$ ）。対象者の発病は3人（0.94%）であった。健診受診率は低いが治療完了率は高く、個々への粘り強い説得や丁寧な服薬支援が奏功した。本健診のIGRA陽性率は高く、今後も積極的な健診勧奨およびLTBI治療を推進し、結核罹患率の低下を図る必要がある。

キーワード：接触者健診, IGRA, LTBI, 服薬支援, 簡易宿所, あいりん地域